

兵庫県こころのケアセンター 平成25年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（個別事業評価）

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数、受講者とも目標を上回っており、計画を着実にこなしている。 ・こころのケアに関する関心の高まりと研修ニーズの充実のため、新たに3コースを新設して、受講者増につながっている。 ・研修の満足度は5点満点中4.2点と高く、研修内容においても成果を上げている。 ・県外からの受講者が半数近になっており、当センターの研修の全国的な評価も高いと判断される。 ・受講希望者のうち受講できなかった者の割合が16%と、昨年度より3ポイント改善されているものの、引き続き改善を検討する余地がある。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころのケア」シンポジウムは、「DVによって傷つく子どものこころ」をテーマとし、参加者から高い評価を得ていることは、これまでの研究成果の発表の場として効果的な活動となっている。 ・ホームページについて、アクセス数が増加しており、「子どものこころのケア」のコーナーの充実等が確実に成果を上げている。 ・研修時に施設見学を取り入れていることは活動状況の紹介として効果的であり評価できる。 ・パネル展示による来所者への活動状況の紹介は、今後とも更新していく必要がある。 ・今後は、県内外及び海外の関係機関と連携した普及啓発活動の充実について検討することも必要である。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の被災地支援として、専門的職員を派遣して、継続的に活動が行われており、高く評価できる。 ・昨年度は、宝塚市役所庁舎火災事件に関連した宝塚市職員への支援活動は、突発的な事故にかかわらず迅速的対応することができている。 ・四川大震災への支援活動は、国際的支援として期待される効果を上げた。 ・こころのケアの拠点施設として、県内外及び海外の関係機関とも質の高い連携・協力が行われている。
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談実績については、1,544件(前年比120.9%)と増加し、来所相談も407件(前年比178.5%)と増加しており効果を上げている。 ・相談内容もトラウマ・PTSD関連の相談が70.2%(前年度60.5%)と7割を超えており、当センターの設置目的に合った利用が図られている。 ・地域の相談機関や医療機関からの紹介も定着しており、こころのケアの専門機関として、期待される役割を果たしていると評価できる。

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> ・受診件数3153名(前年比112.5%)、初診者数65名(前年比118.2%)と、ともに増加しており、年度計画通りの診療が実施されている。 ・児童の受診が増え、子どものトラウマと女性に配慮した治療が充実してきたことは、センターの新しい重要な特色として大きく評価できる。 ・アセスメントからPE療法(長時間曝露療法)やTF-CBTやEMDRなどの高度な専門的治療を行い、専門的で重要な役割を果たしている。 ・被災地支援活動が増加する中での診療時間の確保、専門的治療の更なる充実の必要性、職員の加重負担の軽減などを図るため、人員や予算面での拡充を図ることが望ましいと思われる。 ・関係機関からの紹介により受診に至るケースが多いので、引き続き医療機関等の機関に当センターの特徴を広報していく必要がある。
ヒューマンケアアカレッジ事業(音楽療法士養成講座)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法の実践状況を踏まえ、新規の受講生を確保しながら、専門性を高める3分野の講座へ展開できるように構成され、音楽療法士補の育成ができています。 ・講座や事業内容のより一層の充実や見直しに取り組み、音楽療法講演会や実践活動発表会を開催して、普及・推進に取り組むことが望ましい。
ヒューマンケアアカレッジ事業(実践普及講座)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒューマンケア」理念の普及啓発と実践を担う地域や家庭での人材の養成講座で、参加希望者数、出席率、受講満足度とも良好である。 ・講座の内容については、受講者のニーズの的確な把握に努め社会的有用性などに常に留意して見直しを行うとともに、家庭・地域・施設において「ヒューマンケア」理念の普及・啓発と実践を行う人材の養成がどのように実現しているのかフォローアップ調査を実施する必要があると思われる。
センター業務運営の効率化	A	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所の受診者数、ストレスドック検診者数、宿泊室の利用者数は目標値を上回り、診療収入も前年度に比べ15.6%増加している。結果的に、収支差額において1,821,486円の余剰金が生じたことは、利用者拡大への取り組みと効率的な運営、経費削減の努力の成果とみなされる。 ・業績評価システムの定量的、定性的な評価観点の設定により、自己点検の課題が明確化され、外部からも適切な改善につながる評価ができています。

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。